

メタルオンメタルTHAにおける血清中金属イオン濃度に関する前向き研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大鶴, 任彦 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31558

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2899 号	氏 名	大 鶴 任 彦
審 査 委 員 会	主 査 教 授	松 井 英 雄	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>人工股関節置換術施行時に汎用される金属製大腿骨頭は長期使用による摩耗や脱臼といった有害事象が減少するとされているが、金属同士の摺動面の摩耗による血清中金属イオンの上昇や接合部の金属腐食による合併症が報告されている。</p> <p>本論文ではメタル摺動面を有するコンポーネントを使用した片側人工股関節置換術30例に対して術前より2年にわたり、血清中コバルト、クロムイオン濃度を調査し、カップ設置角度、患者活動性などとの関連を調査した。結果としてコバルトイオン濃度は術後3ヶ月で定常状態となり、クロムイオン濃度は漸増傾向であった。またカップ設置角度として前捻角は20度が妥当であり、術後100万サイクル(100万歩)でもクロムイオンは漸増し、実臨床では定常状態に至るまでの期間が長いと類推されている。</p>			
<p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			